

# 第III章 調査

## 1 調査概要

### A 第114次調査

頭塔の東北側にある旧奈良地方法務局の敷地で、奈良県立老人福祉センターの建設に伴う事前発掘調査として行ったが、頭塔の一部も調査した。頭塔初の発掘調査であり、塔本体と別に基壇があることが確定した。

**石仏新発見** 頭塔ではE 1 c 石仏周辺（C区）、基壇東北隅部（D区）を調査した。C区ではE 0 wと外周石敷、E 1 wを検出し、E 1 b 石仏を発見した。E 1 wは南北9.3m分を検出し、さらに北に続き、E 1 c 石仏の南2.8m以南では抜き取っている。石仏は石積基底部より高く、かつ前面より奥に据えてある。E 0 wと外周石敷は南北2m分を検出し、E 0 w上半とE 0 p 東半が削平されている。D区ではE 0 の削平が著しかった。E 0 は積土からなり、D区では地山直上に、C区では旧表土上に積んである。奈良時代の瓦はすべて東大寺式で、頭塔が東大寺と密接な関係にあったことを窺わせる。

**南北大溝** 老人福祉センター建設予定地では、東西50m、南北40mの敷地の南端に、南北3m、東西37mのA区、敷地西端に東西2m、南北12mのB区を設定した。A区はE 0 wの東側、B区はN 0 wの北側に当たる。両区ともに旧奈良法務局の建物基礎が随所に残り、全体に攪乱が激しい。中世～現代の遺物包含層の下、地山面で小柱穴、溝、土坑などを検出した。古代に遡るものとしてA区西端、E 0 wの東4mに南北大溝がある。幅6m、深さ1mで平安時代後期に廃絶した。B区に大溝はなく、等距離で頭塔を巡りはしないが、頭塔に関連した遺構の可能性が高い。

### B 第181次調査

奈良県が行う史跡頭塔の復原整備事業に先立つ発掘調査が始まった。目的は頭塔本来の規模・構造の確認で、今回は東北4分の1が範囲（約300m<sup>2</sup>）である。塔本体が従来説かれてきた4段ではなく7段で、土盛り石貼りの特殊な構造と判明し、石仏配置にも新知見を得た。

事前に斜面上の木々の伐採、発掘前写真撮影、平板による現況地形測量、地下の石組遺構・金属などの有無を把握するための電気探査・電磁誘導探査を行った。発掘所見は①基壇、②塔本体、③石仏、④遺物の順で述べる。

**基壇の舗装** ①、基壇は第114次調査でE 0 wと外周石敷の一部を確認していたが、その続きを検出した。ただし東辺中央から北6mまでしか残らず、それ以北のE 0 wとN 0 wは残っていないと判明した。N 0 については築土の裾が直線的に残り、裾近くに石積の裏込め石が東西に並ぶので、N 0 w北端の復原は可能である。基壇上面の舗装の変遷は、I期玉石敷→II期礫敷→III期版築状たたき、である。問題は、1wを伴うのがIII期舗装であって、I-II期舗装が1wの下にも

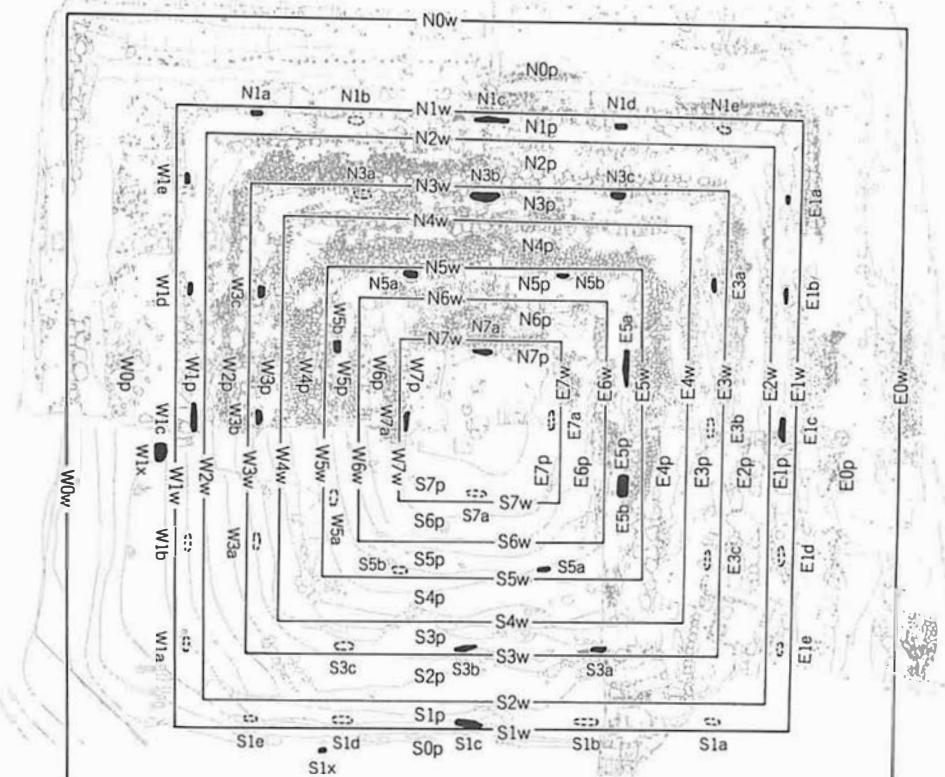


Fig. 2 遺構記号図 (1 : 300)

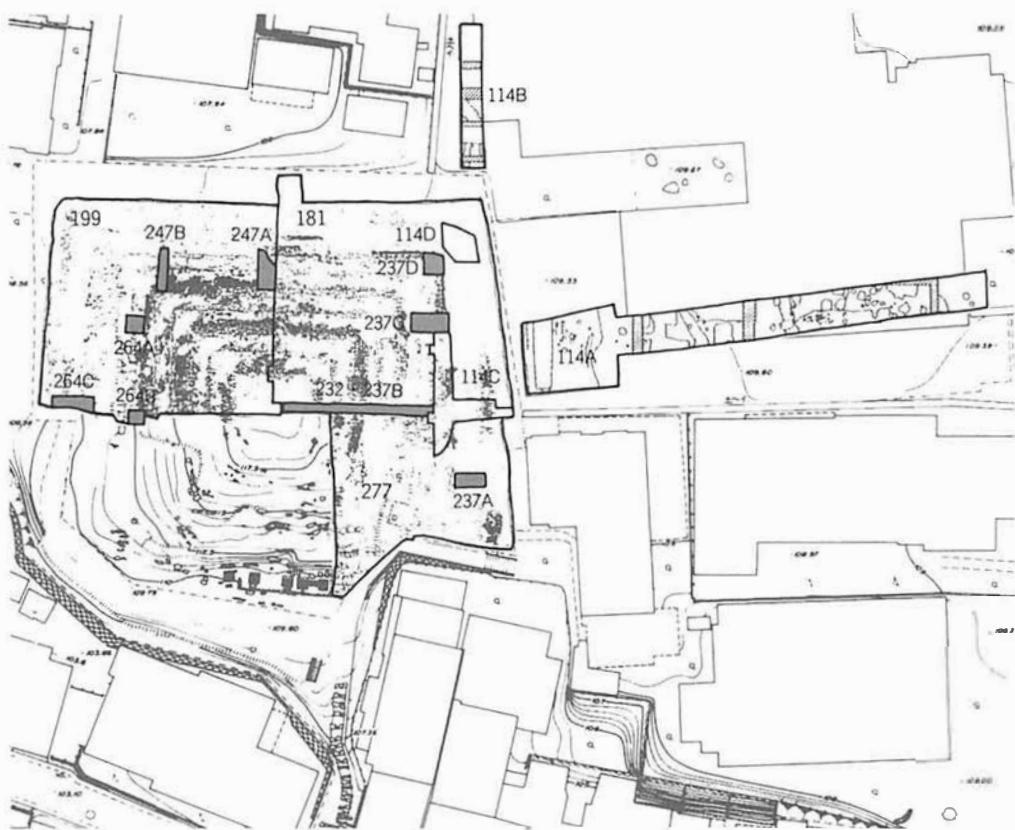


Fig. 3 発掘調査位置図 (1 : 600)

ぐり込むことである。第237次調査以降、I・II期舗装が下層頭塔に伴うと認識するようになる。しかし第181次調査の時点では、塔本体に改修があり、現存する1wのみは改修後のもので、当初の石積が一回り小規模だった可能性を考えた。

#### 塔本体段 は 7

②、塔本体は石積と石敷で外装した7段の階段状で、基壇上面からの高さは8.1mである。基壇と同じく盛土からなる。断割は行わなかったが、調査区外の頭塔東南部の崩れた崖面で版築を確認した。この崖面では第277次調査で下層E2wと判明する石列の一部も検出したが、下層発見前であるから当然ながら、上層築土内のものとみなした。石積は1wが高さ約1mを残すのみで、2w以上は最下段の1~2石が残るにすぎない。各段上面石敷は、石仏前面の偶数段上が広くて残りが良く、奇数段上が狭くて残りが悪いことを確認した。

③、石仏は従来から露出していたN1c・N3c・N7a・E1c、第114次調査で発見したE1b石仏以外に、E1a・E3a・E5a N3c・N5b石仏を発見した。石仏は石積前面から40cmほど奥に据わり、両脇に袖石を置いて、仏龕をなす。E1・N1の仏龕のみは前面石敷から一段高い。石仏の配置は従来、1段-3体、3段-3体、5段-2体、7段-1体と考えてきたが、東面の状況から1段は5体の可能性が強くなった。しかし北面ではN1dの位置にアラカシが生えていて確認できず、N1eは石仏も仏龕の痕跡もなく、問題を残した。

#### 第1段 は 5 体

④、主要遺物は瓦と土器である。土器は12世紀から13世紀前半のものが主で、仏龕床面に石仏供養の灯明皿として置いたものが多い。基壇盛土から奈良時代後半の土師器が少量出土した。瓦は多量の丸瓦・平瓦に加え軒瓦も多い。ほとんどが包含層から出土し基壇上にも多いが、仏龕周囲に集中することはない。面積に対して軒瓦が多い。軒瓦のほとんどが東大寺式であり、頭塔を東大寺の僧実忠が造立した土塔と見る従来の研究成果を裏付けると考えた。また型式が6235M 6732Fに限られるので、寄せ集めではなく頭塔のために集中的に製作したものと推測した。ただし、瓦の用い方を推測させる出土状況・遺構に恵まれず、課題を残した。

#### 東大寺 式軒瓦

### C 第199次調査

今回は西北4分の1が範囲（約300m<sup>2</sup>）であり、一部第181次調査区の再調査と断割を行った。主目的は第181次調査で残った課題、すなわち、多量に出土する瓦の使用法、基壇造り替えと現石積との関係、現状で石敷のない塔頂部の施設の解明である。なお、第199次以降の調査は、同一の遺構を何度も調査し所見の変更も多いので、先行次数の成果と変化のない点は極力省略し、新知見と所見の変更、後に所見が変わる点についてどう考えていたか、を重点的に記述する。

①、基壇は今回W0wを検出し東西長32.5mと確定した。W0wは階段状でE0wとは異なり、外周石敷もない。基壇上面の舗装0Pは第181次調査で確認したように3時期の変遷がある。

#### 柱と隅木

I期石敷は1wの周囲に犬走り状に巡りその外側は盛土のままである。今回石敷の西北隅を検出し東西幅が26mと判明した。北縁が東で北に振れ、東で南に振れる1wとずれが大きい。石敷の東北隅・西北隅には赤色顔料を塗った柱を立てた柱穴がある。I期石敷が下層頭塔に伴うという認識がない当調査時点では、屋根の隅木を支える柱が立ち、柱の間に桁を渡して屋根を支えたと考えた。ただし柱を検出したのは隅のみである。この柱はII期にも継続する。

II期礫敷はI期石敷の上に版築で10cmかさ上げし、上面に細かい礫を敷いたもので、1w近くには礫上に玉石を配す部分もある。

III期はII期礫敷の上に盛土し化粧をしない。1W際が高く縁辺に向かって斜面をなす。II期礫敷上には多量の石や瓦が転落するが、片付けせずに上に土を盛っている。後の調査で、下層頭塔を崩した際の落下物と判明する。

②、塔本体のうち1WはIII期舗装上に乗る。当調査も下層頭塔発見前であるから、第181次調査の見解を受け継ぎ、第1段の拡張・積み替えを考え、改修後の1Pには石敷がないと見た。  
2段以上については当初のもので改修はないと理解した。石積は元の高さが不明であり、奇数段が1~1.1m、偶数段が0.5~0.6mと復原したが、上面石敷の傾斜に奇数段と偶数段で差があるとは明言していない。2段以上の上面石敷は中心から両隅に向かって次第に高くなるように、屋根勾配に葺いてある。2Pの西北隅、4Pの西北・東北隅に石を葺かぬ溝状部分があり、石積の直下に始まり入隅方向にのびることから隅木を置いた溝と考えた。

頂上中央に後世に安置した五輪塔の下を調査した。五輪塔台石とその下の凝灰岩製板石をはずすと盗掘坑があり、和同開珎、神功開寶、隆平永寶が出土した。その下で径46cm、深さ2m以上の円形坑を発見した。坑の直径が変わらず、埋土に木炭粒と灰を含むので、地下の礎石上に立てた心柱の地上部分と地表直下部分が落雷で焼け、それより下の柱が朽ちた痕跡と考えた。

③、石仏はW1e・W3b・W3c・W5b・N1a・N5aを発見し、N1b・N3aの抜き取り痕跡を検出した。

④、瓦・土器の出土傾向は第181次調査と変化ない。軒平瓦の額部に朱が付いたものがあり、茅負や垂木などで組んだ屋根の存在を示す。凝灰岩製六角屋蓋石塔の屋蓋片があり、頂上に十三重石塔を建てた根拠とした。頂上部盗掘坑から出土の銭貨はこの石塔の舍利莊嚴具と考えた。

⑤、第181・199次の成果を総合して、頭塔の構造と変遷について仮説を提示した。変遷は、基壇上面舗装の変遷に合わせて3時期を設定した。

I期：奈良時代。I期基壇上に塔身が乗り、頂上には相輪が立つ。各段の石積が各層の塔身となり、桁・隅木・垂木を架け瓦を葺いたとした。垂木を認めたのは、I期舗装に伴う柱が隅木と桁を支えると考えたからである。屋根の数は、各段にかけた七重案と、偶数段にかけ最上部に木造塔身を1層加えた五重案とを提示した。

II期 平安時代初頭～。瓦葺屋根はまだ残るがII期舗装に造り替える。落雷で相輪がなくなり、凝灰岩製十三重六角屋蓋石塔を建てる。

III期：平安時代末～。各層の屋蓋が倒壊し、石仏は露出し、頂部に十三重石塔を残すのみとなる。III期基壇に造り替える。平安時代末の『七大寺巡礼私記』が「十三重の大墓」と記す状態。各段には凝灰岩製の小石塔が多数安置され、石仏は一般民衆の信仰の対象となり13世紀頃まで供養された。

## D 第232次調査

第181・199次調査の成果を受けて、奈良県が復原整備基本計画を策定した。それに基づき1991年度から基壇の復原を試験的に行うこととなり、石積の部分的解体が必要となった。石積の復原のためには、本来の石の積み方、内部の土の築き方を解明する必要があり、東面中央の中軸線沿いに幅80cm、長さ18mの断割トレンチを設定した。

積土は版築による。1層の厚さは平均10cm前後で、E5以下では薄く堅固だが、E6以上で

第1段  
改修脱

六角屋蓋  
石塔

断割開始

は厚く比較的粗い。E 1 から E 3 にかけては、版築の途中に瓦や石の敷込みが顕著にみられる。E 0 w 下方では、地山上に旧表土が残り、その上に版築している。掘込地業は行わない。

石積と版築は同時に行う。石積には積み石背後の裏込栗石がなく、石の下や裏側、目地はすべて土である。基本的には石を据えるための根石や飼い石を用いていない。

E 0 w には据え付け掘形があり、埋土から14世紀以降の羽釜と13世紀前後の灯明皿が出土し、14世紀以降の改修が明らかとなった。

### E 第237次調査

1992年度は東面北半部の基壇・塔本体の石積の修理・復原を行うことになり、それに先立ち4個所を調査した。E 0 w の振れを調べるため、第181次南壁から5mに東西トレンチを設けた（A区）。積土内部の築成手法を明らかにするため、第232次の東面中央断面（B区）をさらに下げたところ、予想外にも下層石積を発見したため、それが北に延びるか確認すべく E 1 a・b 石仏の間（C区）を断ち割り、E 1 w の下にもぐり込む I・II期舗装と下層石積との関係をつかんだ。また E 1・N 1 の隅も断ち割った（D区）。しかし下層石積全体の規模、構造、築造時期は不明で、実忠が神護景雲元年に築造した「土塔」との関係の解明が課題となった。

下層 E 1 w は上層 E 2 p の下、E 1 w の前面から約1.7mにある。基底部が2段の階段状をなし、その上に残存高1.5mの石積がある。A区では上半部が奥行き1.7mの仏龕となる。C区でも下層 E 1 w を検出したが、D区は石積に達しなかった。前回までの調査で検出していったI期石敷は、C区で下層 E 1 w の階段状基底石に接続し、幅2.3mとなった。II期礫敷はB・C両区で下層 E 1 w の手前で消滅するが、攪乱ないし削平のためと考えた。D区では全面で確認した。

### F 第247次調査

1993年度は、N 1 w・N 2 w の解体修理に伴って、N 1 c 石仏西側（A区）、N 1 a 石仏東側（B区）を断ち割った。下層石積とI期石敷・II期礫敷を検出し、下層石積が上層と同様に方形平面を持つ可能性が強まった。

下層 N 1 w は残存高約90cmで、上下の石を噛み合わせる工法で積む。下層 E 1 w の基底部が2段の階段状をなすのと異なり、そうした施工がない。東面と同じくI期石敷は下層 N 1 w 基底石に接続する。II期礫敷は石積の手前でなくなるが、当初から石積と離れていた可能性を考えた。A区は北面仏龕の推定位置だが有無を確認できなかった。II期礫敷の上面や上層の積土から6235M・6732Fが出土し、下層石積にも瓦を葺いたようだ。上層についてはN 1 d 石仏を見し、N 1 b・N 1 e 石仏は抜き取り跡を精査した。上層の石積は、上下の石を直接噛み合わせず、土を挟み込む工法で、下層と異なるという認識を示した。

### G 第257次調査

1994年度は、発掘調査は行わなかったが、N 3 w～N 6 w の解体修理に伴って知見を得た。N 4 w 基底石は前面が平らで大きさの揃った石を用いて、石積の前面が真っ直ぐに揃うように並べる。同じ状況はE 3・E 5・N 3 でも確認している。N 5 x 立石の裏面で円形の窪みを発見し、本来の用途や頭塔に据えた意味は不明ながら、転用材の可能性が高まった。

## H 第264次調査

1995年度は、W 0 w・W 1 w～W 6 wの解体修理に伴って、W 2 w北端から4.4m（A区）、W 1 c石仏裏（B区）、W 1 c石仏西のW 0 w（C区）の3ヶ所を断ち割った。下層石積を検出したが、不可解な点が残った。

C区では、W 0 wの階段状石積が下層まで遡ると判断した。A区では下層W 1 w基底部を検出した。東面と同じく2段の階段状を呈する。それより上は残らず、基壇上面石敷も確認できなかった。B区でも下層W 1 wを検出したが、概報では、下層ではなく上層の築成過程で築いた土止め施設と考えた。根拠は次の3点である。①E 1 c石仏裏の下層E 1 wと異なり、仏龕状にならず垂直壁である。②石積は高さ1.3mを確認したが、その下25cmまで石がなく、石積の下端はA区の下層基壇上面より1mほど高い。③石積とW 1 c石仏の間に石敷がある。②・③については、第277次で疑問が氷解することになる。

また、東高西低の原地形を、東は削平、西は盛土して、2%の西下がり勾配の平坦面を造成して下層を築成したため、下層基壇上面も同じ勾配をもつが、上層への造り替えに際して基壇上面を水平に直したという認識を示した。

## I 第277次調査

第237・247 264次調査で下層石積を検出したが、範囲が狭く、規模・構造・築造年代などの追究には限界があった。そこで、下層頭塔の解明を第一目標として、江戸時代の削平のため上層石積の残りが悪く、下層石積を広く検出できると推定できた東南部を面的に調査するとともに、頂上部も再調査した。

下層は、E 1 w・E 2 w・S 1 wとI期石敷を検出した。予想以上に削平がひどく下層E 1 wは基底部しか残っていないが、その3.6m西で下層E 2 wを7.9m検出し、下層も層塔であったことが確定した。下層E 1 p・E 2 pが同じ幅であれば、3重に復原できるが、上層への造り替えに際し崩されたためか、頂上部断ち割りでも3重目築土は確認できなかった。下層S 1 wは残りが良い。石積の途中に帶状の築土露出部があることが判明し、第264次B区での疑問が氷解した。第264次B区でもさらに掘り下げれば、石積が出たであろう。また、下層石積を高く残したまま上層石積を積む際には、裏込土を積む途中で石敷を設けることがあり、第264次B区も同じ状況と判明した。また上層と異なり仏龕がほとんどないこと、下層の造営に際し古墳を破壊したことが明らかとなった。

下層2重を検出

上層東面は、E 1 wからE 4 wまで江戸時代の破壊が著しいが、E 4 p・E 5 w・E 5 p・E 6 wを比較的良好に検出し、奇数段上面にのみ屋根を葺いたと推定できた。釈迦・多宝二仏並座のE 5 b石仏を発見し、上層石仏の造像構想の考察上重要な手がかりとなった。頂上では第199次で深さ1.8mまで掘り下げていた心柱痕跡をさらに下げたところ、礎石を発見し、落雷による頂部施設の廃絶後、縞錢・琥珀玉を投入する祭祀を行ったと判明した。

## J 第282-15次調査

7 wの解体修理に伴う調査で、石積最下段部分を検出した。

## 2 調査日誌

### A 第114次調査 東面2ヶ所、東外・北外の発掘調査 1978年7月17日～1978年8月12日

- 7月17日(月) 作業開始。草刈とフェンスの撤去。  
老人福祉センター建設予定地の南西隅に東西7.5m、南北6mの調査区(A区)を設定し、表土の除去にかかる。東北隅で地山を確認。
- 7月18日(火) 幅6mの南北溝を検出。
- 7月19日(水) 南北溝を掘り下げ始める。
- 7月20日(木) 南北溝を掘り上げる。
- 7月21日(金) 清掃と写真撮影。調査区の東隣に東西27m、南北3mの調査区を新たに設定し、表土の除去にかかる。中央で新しい築地の基礎を検出。
- 7月24日(月) 表土の除去を続ける。
- 7月25日(火) 表土の除去を終わり、遺構検出を開始。調査区の西端は攪乱が著しい。調査区の東端は地山が浅い。
- 7月26日(水) 遺構検出続行。敷地西北隅に南北11.5m、東西2mの調査区(B区)を設定。
- 7月27日(木) B区は表土の除去。A区は築地を実測し除去。頭塔史跡指定地内、E1c石仏の東側に東西6m、南北2mの調査区(C区)を設定し発掘開始。頭塔内で基準点測量。
- 7月28日(木) A区は清掃と写真撮影。B区は北へ拡張し表土除去。C区ではE1wを検出。その前面には平坦な石敷面がある。基壇東北隅に調査区(D区)を設け発掘開始。
- 7月29日(金) B区は表土除去の続き。C区は石仏前の表土を除去。D区では表土を除去。基壇土は削平が著しい。
- 7月31日(月) A区に遺形を設定。B区には顕著な遺構無し。C区では、E1c石仏前面でE0wを検出。石積は2段が残る。基壇上面は緩傾斜で東に下がる。D区ではE0wは残らず。
- 8月1日(火) A区は水糸配り。B区は写真撮影と遺形設定。C区は写真撮影。
- 8月2日(水) A・B区は実測。C区はE1c石仏の北側を拡張し、E1wを検出。
- 8月3日(木) A・B区は実測。C区ではE1c石仏の北5.4mであらたにE1b石仏を発見し、取扱と写真撮影。E1c石仏の南側も拡張し、上土を除去。
- 8月4日(金) A・B区の土層図作成。B区は埋め戻す。C区はE1c石仏の東側を掘り下げる。頭塔南面にも調査区を設け(E区)、S3a・S3b石仏の前面を清掃。午後から記者発表。
- 8月5日(土) E1c石仏東側の掘り下げを終り土層図を作成。
- 8月7日(月) E1c石仏南側の畦を撤去。S3a・S3b石仏前面の清掃と写真撮影。
- 8月8日(火) 清掃、写真撮影、写真測量。S5a石仏前面を掘り下げ石敷を検出。遺形を設定。
- 8月9日(水) 平面実測。
- 8月10日(木) 平面実測と土層図の作成。
- 8月11日(金) 砂入れと埋め戻しを始める。
- 8月12日(土) 埋め戻し完了。

### B 第181次調査 東北部の発掘調査 1987年2月2日～1987年4月17日

- 1月9日(金) 奈文研と奈良県教育委員会で樹木伐採の現地打ち合わせ。
- 1月22日(木) 樹木の伐採開始。
- 1月29日(木) 奈文研と奈良県教育委員会で発掘調査の現地打ち合わせ。
- 2月2日(月) 関係者が参加してお祓い。調査前の現況写真撮影。機材搬入。測量基準点の埋設作業を開始。
- 2月3日(火) 基準点埋設終了。基準点トラバース測量。
- 2月4日(水) 測量計算の後に、地区杭を打つ。
- 2月5日(木) 平板測量と電気探査。
- 2月6日(金) 平板測量と電気探査の続き。
- 2月7日(土) 電気探査。
- 2月9日(月) 平板測量と電気探査の続き。
- 2月10日(火) 平板測量と電気探査の続き。
- 2月12日(木) 平板測量。ペルコンをセットし、最上段から表土除去を開始。
- 2月13日(金) 平板測量の続きと地区杭打ち。表土除去は塔身上半分を終わる。石積・石敷が現れ始める。
- 2月16日(月) 平板測量。塔身下半分と基壇上面の表土除去。
- 2月17日(火) 北面から東面にかけての基壇部分の表土除去。
- 2月18日(水) 東面基壇部分の表土除去。基壇上面で新しい塙の柱掘形を検出。発掘区南端を第114次調査区を取り込むE1c石仏南端まで拡張。
- 2月19日(木) 東面基壇部分の表土を除去。第114次調査区を掘り上げる。E0wは調査区南端から9m以北では抜き取られている。石仏がある4つの段の間に1段ずつ石積があり、計7段になる可能性に気付く。
- 2月20日(金) 東面から北面にかけての基壇外側の

表土を除去。N 0 wは抜かれている。飛火野莊との境のフェンスの基礎をクレーンで除去。

2月21日(土) 調査員全員が第178次調査(デパート建設予定地)に集合したため作業なし。

2月23日(月) 作業員旅行のため作業なし。

2月24日(火) 排土をダンプカーで平城宮内へ搬出。計11台分に達す。

2月25日(水) 排土搬出の続き。発掘区内の木の伐採。

2月26日(木) 排土と伐採した木の搬出。

2月27日(金) 発掘区東辺と北辺の表土除去。東辺中央部は現代の大土坑で破壊されている。午後は部員会議のため作業なし。

3月2日(月) 最上段から遺構検出開始。E 7 a 石仏は抜かれている。E 5 a・N 5 b 石仏、N 5 x 立石を発見。石敷上面は凹凸があり、きれいな面をなしていない。

3月3日(火) 5 w・4 w・3 wを精査。N 3 c・E 3 a 石仏を発見。N 5 b・N 3 c 石仏の前には平瓦を伏せた上に供養の土師器小皿を置いている。N 3 c・N 5 b・E 5 a・E 3 a 石仏の写真撮影。

3月4日(水) 第3・2・1段の包含層を除去。E 3 a 石仏の前で10枚前後の土師器小皿が重なって出土。写真撮影。

3月5日(木) 北面基壇上の包含層の除去開始。

3月6日(金) 北面基壇上の包含層除去の続き。基壇上で新しい東西溝を検出し掘り上げる。N 1 w の全面に軒瓦が多数散乱。写真撮影。

3月7日(土) 発掘作業はなし。石仏前面の遺物の実測を始めたが雨のため中止。

3月9日(月) 午前中降雨のため午後のみ作業。北面基壇上の包含層除去が終了。

3月10日(火) 石仏前面の土器・瓦を取り上げる。石仏の拓本を取る。

3月11日(水) 浮いている石や遺物をすべて除去し原位置の石敷・石積を露出させる作業を開始。本日は第7・6段。

3月12日(木) 第5・4・3段の露出作業。

3月13日(金) 雨で午前のみ作業。第2段の露出作業。10時から飛火野莊で第2回頭塔環境整備委員会。14時から記者発表。

3月14日(土) 第1段の露出作業。E 1 a 石仏を発見。図像は不鮮明。

3月16日(月) 北面第1段の露出作業。N 1 wとE 1 wの隅の外側で列石と礫敷を検出。その上には黄色土が乗り、1 wはさらにその上に乗る。列石の方位は1 wの方位とずれる。この列石と礫敷は下層頭塔のものだが、当然ながらこの時点では、まだ認識していない。頂上では90cm角のコンクリート製基礎を検出した。中から小銅片、裏込から擂鉢の小片が出土。

3月17日(火) 基壇上面の精査。16日に検出した列石と礫敷を西と南に追跡。ともに1 wの周囲に大走り状に巡る。雨のため2時45分で作業中止。

3月18日(水) 現地説明会。午前中は見学路を設営。13時半から奈良教育大講堂にて説明、14時半~15時半で頭塔の現地見学。見学者は約240人。

3月19日(木) N 1 c 石仏前の瓦堆積を露出し、実測しつつ取り上げる。13~15時は自由見学会。見学者は100名以上で、やや混乱した。

3月20日(金) 調査区北・東辺部の基壇外側の清掃。午後は自由見学会。

3月23日(月) 午前は大仏殿大棟中央と頭塔頂上との間で測量。午後は北面基壇上の瓦の取り上げと清掃。

3月24日(火) 雨のため作業なし。

3月25日(水) 北面の基壇端を確認するため拡張区を設けたが、地山面の継ぎを検出したのみで、基壇の痕跡はなかった。機材片付けと清掃。

3月26日(木) 地上写真撮影。機材を撤収。

3月27日(金) 地上写真撮影。N 1 c 石仏の拓本作成。機材を撤収。

3月28日(土) 第278次調査現況のため作業なし。

3月30日(月) 写真測量に備えて標定点の設置と測量。

3月31日(火) 写真測量の支障となる木の枝を落とす。全体の清掃。北面基壇積土の土層図作成。

4月1日(水) 午前中は辞令交付のため作業なし。午後は土層図作成の続き。

4月2日(木) 写真測量の予定日だったが、雨でできず。頂上のコンクリート基礎から出土した銃弾状金属の鑑定を自衛隊奈良地方連絡部に依頼。

4月3日(金) 写真測量のための写真撮影。釣竿方式で平面の撮影を行う。

4月4日(土) 東面基壇積土の土層図を作成。

4月6日(月) 写真測量のための写真撮影。ヤグラ3段と手持ちで立面を撮影。

4月7日(火) 雨のため作業なし。

4月8日(水) 立面の写真撮影の続き。

4月9日(木) 立面の写真撮影の続き。調査区の南側の崖面を清掃。石積の一部が顔を出している。第277次調査で下層頭塔E 2 wと判明するが、まだ認識していない。

4月10日(金) 9日に清掃した崖面の立面図を作成。調査区西壁の土層線引き。標定点測量のトータルステーションによるやり直し。

4月13日(月) E 1 a・E 1 b・E 5 a・N 3 c 石仏の拓本作成。

4月14日(火) 調査区西壁・南壁の土層図作成。3個所の断面と土層図作成。

4月15日(水) 午前は平城宮跡で埋め戻し用の土壌作成。午後に現場に搬入。

4月16日(木) 土嚢作成と現場搬入。  
4月17日(金) 土嚢積み上げ。現場小屋・便所の撤

收。本日で現場終了。

C 第199次調査 西北部の発掘調査 1989年2月13日～1989年4月20日

2月13日(月) 9時から常徳寺住職による地鎮祭。  
木の伐採と草刈、落ち葉の掃除。  
2月14日(火) 7段目から表土 崩壊土を除去しつつ遺構検出。7w、6p、N6wを検出。7wは2～3段が残る。6wは第181次調査区と同様に大きい石が目立つ。  
2月15日(水) 6w、5pを検出。5wは途中まで。N5a石仏を発見。化仏10体の如来像。石仏前の表土から青磁碗・土師器杯が出土。W5p下の積土中から須恵器壺Eが正位の状態で出土。地鎮具の可能性あり。ほかにも積土中から土師器高杯や古墳時代須恵器杯身が出土。なぜ古墳時代の土器が出るのか。7年後の第277次調査で、頭塔築造時に古墳を破壊し石材や土を転用した事が判明し、謎が解けることになる。  
2月16日(木) 第181次調査区のシートの敷き直し。  
伐採材の運び出し。  
2月20日(月) 5w、4pの検出。W5b石仏を発見。図像は見えない。石仏前の平石の下から供養の土師器小皿3枚が出土。W4p上面で、磚ないし漆喰を葺いたような粉を発見。  
2月21日(火) 4p、4wの検出。N4pは途中。W4p完了。W3pは残り悪く、W3wまで達する。W3b石仏が頭を出す。N5a石仏と同様、化仏10体の如来座像。N5a石仏前の供養は2時期ある。雨で15時に作業終了。  
2月22日(水) N4pの精査。積土から寛永通寶が出土。N5a石仏の写真撮影。W4wからW3wの精査。W3b石仏全体を出す。W3c石仏を発見。図像は見えない。周辺に土器片が多いが、据えた状態ではない。  
2月23日(木) N5a石仏前の上層供養面の実測。W3pからW2pの精査。W3b・W3c石仏にも供養の小皿がある。  
2月24日(金) 大喪の礼で作業なし。  
2月27日(月) N5a石仏前の下層供養面の検出。本日から遺構検出は西面に集中。W2pはほぼ完了。一部W2wに達する。  
2月28日(火) N5a石仏前の下層供養面の実測。W2wからW1wの検出。W1wの残りは悪い。  
排土を飛鳥建設の駐車場に搬出開始。  
3月1日(木) W0pの検出。第181次調査時の排土がW0p・W0w上に残り、除去しながらの検出。包含層から鎌倉時代の土師器小皿、白磁、綠釉、凝灰岩製九輪、奈良時代の軒瓦が出土。  
3月2日(木) W0p検出の続き。包含層から銭貨釘 白磁 青磁・凝灰岩製塔などが出土。排土

の搬出開始。  
3月3日(金) W0p検出の続き。W1w際で硬いIII期基壇土が現れ始める。W1wを露出させる。W1e石仏を検出。下半のみ残り、前方に倒れていた。写真撮影後、原位置に戻す。図像は見えない。W1の仏龕は、N1、E1と同様に、石積の下端より高い位置に設ける。本日も排土搬出。  
3月4日(土) W0pの検出。基壇土はW1wの西1.5mから西に傾斜し、その上に鎌倉時代の埋立土が乗る。W1c石仏の西で新しい南北石列を検出。排土を搬出。雨のため14時で作業中止。  
3月6日(月) W1e石仏西側でW0pの精査。埋立土上面の石敷から凝灰岩製塔の部材が多量に出土。本来上方の壇上にあったのが転落したのだろう。W1c石仏からW1d石仏の西方に大石が数個並ぶが、W0wではなく二次的な配石。排土を搬出。  
3月7日(火) W0pの検出と排土の搬出。ようやくW0wが現れる。基壇幅は東面と同じ。石積は調査区南端から4mまで残り、それ以北にはなさそう。  
3月8日(水) W0wの精査。残りが悪い。その西の礫敷はW0w際にだけ残る。15時過ぎに強風でW0p上の木が倒れる。  
3月9日(木) 倒木の処理のためW0の精査を中止し、N4w以下の検出を開始。N3wの一部を検出。N3a石仏は見あたらない。N3pは崩れて残りが悪い。  
3月10日(金) 倒木を運び出し、W0pの精査を再開。II期基壇上面の礫敷を一部検出。  
3月13日(月) 雨で作業なし。  
3月14日(火) 午前中はW0を乾かすため、N2pからN1pを検出。N2p上にはN3wの落石や瓦が多い。午後はW0pの精査。III期基壇土を下げてII期基壇面を出す。W1w北端の西南側のII期基壇面で、径20cmの空洞を検出。柱痕跡か。  
3月15日(水) W0w西側の上土除去。W0wは北端近くの残りがよい。石積が階段状となる。W0pはII期基壇面の検出の続き。III期基壇土から土馬の尾が出土。N2の清掃。  
3月16日(木) W0w西の遺構検出。W0p北端で、III期基壇土を検出して下げる。  
3月17日(金) W0w西の地山面での遺構検出。近世に石を寄せ集めた中から凝灰岩製円柱状品が出土。九輪の一部か。N1wからN0pの検出。表土下の黄灰土上面を出す。N0p北端にある近代の石列を除去。N1c石仏の西北で土師器小皿が

多数出土。

3月18日(土) N 0 w北側を地山まで下げる。N 0 pは黄灰土を除去し始める。N 1 c石仏の西北で土師器小皿・脚台付き皿多く出土。N 1 a石仏想定位置を下げるが、供養の遺物はほとんどない。W 2 p・N 2 p上に残した遺物を取り上げる。W 0 w西の地山面での遺構検出。  
3月20日(月) W 0 w西の地山面での遺構検出。N 0 pは黄灰土を除去し、III期基壇面を出し始める。N 1 a石仏を発見するがまだ掘らず。

3月22日(水) W 0 w西の地山面での遺構検出完了。N 2 p上の石敷の検出。N 0 pは黄灰土除去の続き。丸・平瓦、転石が多い。III期基壇面上の東西溝を下げ始める。室町時代の羽釜・伊万里が出土。  
3月23日(木) W 2 p上の転石除去。N 0 pはIII期基壇面の検出と東西溝の掘り下げ。排土を搬出し、ベルコンを撤収。

3月24日(金) N 0 pは東西溝の掘り下げとIII期基壇面の精査。溝の北で杭跡列を検出。W 0 w西でも同様の溝と穴があり、頭塔全体を囲っていたようだ。N 1 a石仏を掘り出す。

第181次調査区でN 1 w東端から6mの範囲のN 0 p II期基壇面を除去して、I期玉石敷を検出。玉石敷の端は西で南に振れN 1 wの下に入り込むと判明。つまり今調査区のN 0 pではI期玉石敷は検出できないから、III期基壇面を残す事にする。W 0 pでは、北半でII期基壇面を出し、南半はIII期基壇面を残す。雨のため、14時半で作業中止。

3月27日(月) W 0 pのII期基壇面の検出。3月14日に発見した空洞の中を下げる。遺物はない。第181次調査区のN 0 pの清掃と調査区境界畔の土層図作製。現説に備え、第181次調査区内の塔身に積んだ土糞を撤去し、見学用通路を設営。雨のため14時で作業中止。

3月28日(火) 土糞撤去の続き。調査区境界畔の土層図完成後、畔を撤去始める。N 0 w北に積んだ排土で土糞を作製。

3月29日(水) 畔を撤去完了。N 7 a石仏前に置かれた凝灰岩を取り上げると、奈良市塔の森石塔に似た六角石塔の屋蓋だった。かつて頂上の平坦面に十三重石塔が有り、「七大寺巡礼私記」に「十三重の大墓」とあるのはその描写だった可能性が出てきた。頂上の五輪塔を一時撤去。

3月30日(木) N 0 w北の排土後地山面で遺構検出。頂上の五輪塔の下で凝灰岩の台石を検出。割れて穴の中に落ち込んだ状態。穴は盗掘坑か。実測と写真撮影。N 5 a石仏供養土器の取り上げ。

3月31日(金) N 0 w下の清掃。頂上の第181次調

査区で土坑を検出。雨のため12時で作業中止。

4月1日(土) 頂上の五輪塔下の凝灰岩台石片をはずし、掘形を検出。まだ掘り下げず。

4月3日(月) 写真撮影とテレビの撮影。

4月4日(火) 写真撮影の続き。頂上の五輪塔下土坑の掘り下げ。落ち込んだ凝灰岩片を取り上げる。1点に朱の痕跡あり。掘形は上方が楕円形で下が狭くなる。東・北は壁が出るが南・西が出ない。埋土に炭化物粒・凝灰岩片を含み、銅銭2点が出土。

4月5日(水) 写真撮影の続き。頂上の五輪塔下土坑の掘り下げ。底に達したと判定。壁に粘土が残り、樋状だった可能性を考えた。昨日出土の銅銭が和同開珎・神功開寶と判明。

4月6日(木) 写真撮影の続き。東面の清掃。写真測量の標定点を設定。頂上部土坑の埋土を篩い銅片を検出。

4月7日(金) 平面の写真測量。本日で終了。頂上部土坑の掘り下げ。4月5日の所見と異なり、まだ底に達していないと判明。さらに下げる。埋土から銅銭2点・鉄片などが出土。

4月10日(月) 立面の写真測量。本日で終了。頂上部土坑の掘り下げ。約1m下げても穴の直径は変わらず、硬い黄灰土の周囲に炭と灰が取り巻く面に達する。さらに下げても底が出ない。この穴は心柱の痕跡であろう。

4月11日(火) W 0 pのII期基壇面を断ち割り、I期基壇面を出す。W 1 w北端の脇で検出した空洞は、I期基壇化粧の隅に立つ掘立柱の柱痕跡と判明。N 1とE 1の隅の外側でも同様の柱穴を検出。朱塗りの柱を立ててから石敷を施し、柱の周囲に石を巻く。この時点では隅木を受ける柱と考えた。現説の準備。

4月12日(水) 現説の準備。11時に記者に公開。

4月13日(木) 指導委員会と記者発表。

4月14日(金) 現説準備。

4月15日(土) 現説の準備。石仏の上に瓦葺屋根を復原。

4月16日(日) 現地説明会。

4月17日(月) 撤収準備。

4月18日(火) 断ち割りトレンチの実測。調査区南壁の土層図作製。作業員による作業終了。

4月19日(水) 断ち割りトレンチの実測。N 0 北面の土層図作製。

4月20日(木) N 0 北面の土層図作製。調査区南壁の土層図追加。石仏の写真撮影。夜、石仏前に灯明をともし、写真撮影。本日で終了。

#### D 第232次調査 東面中央の断割と石積の解体・修理・復原 1992年2月17日～1992年4月15日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復

原については『整備報告書』に譲り省略する。

1月27日(月) 現場で打ち合わせ。東面中央に断ち割りトレンチを入れ、その上に素屋根をかけることにする。

2月15日(土) 石積解体前の写真撮影。

2月17日(月) シート・土糞の撤去と清掃。石積の正面からの写真撮影。基準点測量。

2月18日(火) 東西断面の実測。

2月19日(水) E 7 wから順に石の取り外し。E 6 w 2段目の下から石が出てきた。

2月20日(木) E 5 w・E 4 pの取り外し。

2月21日(金) E 4 p取り外し後の写真撮影。E 1 wまで取り外す。

2月24日(月) E 1 w第1段目取り外し後の写真撮影。第2段目を番付け取り外し。

2月25日(火) E 0 w 2段目を外して下を実測。E 0 w前の敷石を外す。

2月26日(水) 東面中央の断ち割り開始。頂上部のコンクリート基礎を除去。

2月27日(木) 部員会議のため作業なし。

2月28日(金) 断ち割りの続き。

3月2日(月) 断ち割りの平面実測。抜根3本。

3月3日(火) 断ち割り部のE 4 w・E 5 wの第2・3段目を取り外す。木の伐採と抜根。

3月4日(水) E 3 w下方を掘り下げ。版築途中で石・瓦を敷き込んでいる。2層を確認。

3月5日(木) E 4 w下方を下げる。やはり築土中に石・瓦を敷き込む。3層を確認。東大寺式軒丸瓦がある。

3月6日(金) E 4 w下方の掘り下げの続き。石・瓦の5層目を確認。

3月9日(月) E 3 w・E 2 p・E 2 w下方の掘り下げ。

3月10日(火) E 3 wからE 2 w下方の掘り下げを終了。E 0 pの断ち割りを開始。

3月11日(水) E 0 p掘り下げの続き。築土中に瓦・土師器が混じる。

3月12日(木) E 0 p掘り下げの続き。

3月13日(金) E 0 p掘り下げの続き。E 0 w裏も掘り下げる。石・軒平瓦を置いている。写真撮影と実測。

3月16日(月) E 0 w裏を掘り下げ地山を確認。石積前面と同様に地山上に旧表土の腐蝕土層が乗る。E 1 c石仏の裏をさらに下げる。石仏や基壇積み石が薄い場合、裏側に比較的大きな石を据えている。

3月19日(木) E 0 wの裏込め土から14世紀以降の羽釜が出土。この地点のE 0 wは、奈良時代ではなく、改修後のものと判明。

3月23・24・25・26・27・30・31日、4月2・6・7・13・14・15日については省略。

## E 第237次調査 東面4ヶ所の断割と東面北半部石積の解体・修理・復原 1992年10月28日～1993年5月12日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復原については『整備報告書』に譲り省略する。

10月28日(木) 現場小屋の移設・清掃。

10月29日(木) 東面の清掃。E 1 c石仏のやや南方のE 0 p上に東西3m、南北1mの調査区を設定(A区)。

10月30日(金) 東面石積の清掃。

11月2日(月) 東面石積の清掃。1段ずつ立面写真撮影。A区の発掘開始。表土除去終了。

11月4日(火) 第232次で途中まで下がた東面中央断ち割りトレンチの掘り下げ開始(B区)。E 7から着手。A区の遺構検出。西端に礫敷、東端にE 0 w石積とその据え付け掘形を検出。東北隅に昭和の攪乱。第277次調査で防空壕と判明する。

11月5日(水) A区北半部掘り下げ。B区掘り下げ。頂上の心柱痕跡のすぐ東で柱痕跡らしき穴を検出。11月6日(木) A区のE 0 w裏込め土は柔らかく当初の築土ではない。北端をさらに下げる。B区断ち割りはE 5まで終了。頂上部の精査開始。

11月9日(日) 雨でA区はせず。B区断ち割りはE 1まで終了。北壁断面図の作製準備。

11月10日(火) A区は攪乱土坑の掘り下げ。頂上部は11月5日に検出した柱穴の対を捜すが見つからず。心柱痕跡は脇を断ち割ったので、さらに掘り

下げ可能となった。

11月11日(水) A区は清掃。頂上部の柱穴を下げるところ鉢状となり新しい穴の可能性有り。B区は土層図作製。

11月12日(木) A区写真撮影。E 0 w東を下げる石敷面を出す。B区土層はぎ取り準備。頂上部の平面実測と断面図作製。

11月13日(金) A区はE 0 w東の掘り下げ終了。頂上は心柱痕跡内の掘り下げ。60cm進む。

11月16日(月) A区は実測。B区土層はぎ取り準備。

11月17日(火) A区は砂入れ、埋め戻し。B区土層はぎ取り準備。復原工事打ち合わせ。

11月18日(水) B区はぎ取り開始。

11月19日(木) B区はぎ取り終了。

11月20日(金) 雨で抜根作業のみ。

11月24日(火) E 1 c石仏裏側の掘り下げ。瓦出土面で中止。復原工事準備本格化。

11月25・26・27 30日、12月1・2 3 4 7  
・8・9・10・14・15・16・17・18・21 22 24  
日、1月6日は省略。

1月7日(木) E 1 c石仏の裏込め瓦を実測後、さらに掘り下げ。B区の埋め戻し。

1月8日(金) E 1 c石仏の裏側の掘り下げ。

1月9日(土) 復原工事のみ。

1月11日(月) E 1 c 石仏のすぐ裏側の掘り下げ。II期基壇礫敷面の高さまで下げても礫敷がなく、人頭大の石が多数出てきた。

1月12日(火) E 1 c 石仏裏側の掘り下げ続行。E 1 c 石仏の西1mで石積らしきものが出てきた。下層頭塔石積の出現である。石積が北に延びるか確認するため、E 1 a・b 石仏の間も断ち割ることにする。

1月13日(水) 下層石積の写真撮影。この時点では仏龕の存在に気づいておらず、その内部を掘り下げていない。

1月14 18・19・20・21日は省略。

1月22日(金) E 1 w 解体工事。瓦が出土。

1月23 25・26・27・28・29日、2月1日は省略。

2月2日(火) E 1 a・b 石仏の間で断ち割りを開始(C区)。

2月3日(水) 作業なし。

2月4日(木) C区掘り下げ。やはり下層石積が現れ始める。

2月5日(金) C区掘り下げ。基壇面のII期礫敷の続きが現れる。礫敷は下層石積の際までは及ばないが、下層石積に伴うものと判明。第181次調査では上層第1段のみの改修を考え、I・II期舗装を改修前のものと見ていた。

2月8日(月) C区はII期礫敷面の実測と写真撮影。B区のE 1 c 石仏のすぐ北を断ち割る。II期礫敷を確認。C区同様にII期礫敷は下層石積みの際までは及ばない。E 1 w・N 1 wの隅石を解体して断ち割り開始(D区)。

2月9日(火) C区はII期礫敷を除去し、I期石敷面を出して写真撮影。D区はII期礫敷面を出して実測、礫敷除去。

#### F 第247次調査 北面2ヶ所の断割と北面石積の解体・修理・復原 1993年12月9日～1994年5月6日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復原については『整備報告書』に譲り省略する。

12月9日(木) 復原工事開始。

12月13・17、1月13・24日は省略。

1月24日(月) N 1 w 東端から7mの木の抜根を開始。N 1 w・N 2 wの石を一部取り外す。両段には裏込め石がある。

1月25日(火) 抜根終了。裏からN 1 d 石仏出現。如来の立像。N 1段にも石仏が5体あった可能性が大となる。

1月27日(木) 抜根作業。

1月28日(金) N 1 e 石仏推定位置の崩落土を除去するが発見できず。N 1 d 石仏周辺の実測。

1月31日(月) N 1 b 石仏推定位置も精査したがない。抜き取り痕跡も不明瞭。

2月1・2・3・4・7・9日は省略。

2月8日(火) N 1 d 石仏の拓本作製。

2月10日(木) C区は実測。D区はI期石敷面を出して写真撮影と実測。

2月11日(木) D区は実測。C区は石積前面に落ち込んだ大石1点を除去する。

2月12・13・15・16日は省略。

2月18日(木) C区下層石積の立面図作製。

2月19日(金) B区下層石積の西側を掘り下げ開始。

2月22日(月) C区下層石積の立面図作製。

2月23日(火) B区の掘り下げ続行。C区下層石積の立面図作製。

2月24日(水) B区下層石積の西側がかなり下がる。玉石がまとまって出始める。B区南壁土層図作製。D区西壁土層図作製。

2月25日(木) B区下層石積の西側を下げ進む。玉石が階段状に並んだが、さらに下げる。C区は土層図作製。

2月26日(金) B区下層石積の西側を下げ進む。下層石積の下から約1mの高さで石敷面を検出。トレンチ北壁沿いに側壁の石積、石積の前面から1.7mには奥壁も出てきたから、石敷を床面とする仏龕が推定できる。奥壁の後の断ち割り断面では下層と上層の版築層の切れ目も発見。

3月1日(月) B区は仏龕内の浮いた石をはずし清扫、写真撮影、土層図作製。C・D区は土層図作製。

3月2日(火) 土層図作製。以後12日まで続く。

3月5日(金) B区平面図作製。

3月8日(月) C区埋め戻し。9日まで。

3月3・4 6・10・11 12・17・18・19・22・  
24・26 29 30 31、4月1・2・5・7・8  
9・12・13・14 15・16・19・22 23日は省略。

測後除去。その南の大石は残して西と南を下げる。N 1 b・N 1 e 石仏推定位置を再度精査するも抜き取り等は検出できず。

2月23日(木) B区土層図作製準備。

2月28日(月) A区掘り下げ。浮いていた大石を除いて下げるに、石仏の40cm南で幅80cm以上、厚60cmの大石(石a)、石仏の1.2m南で幅60cm、厚50cm以上の大石(石b)が現れた。石aを下層石積前面、西壁に並ぶ石を下層仏龕の側壁と考えた。

B区掘り下げ。II期小礫敷を出す。礫敷はN 1 w前面から1.3mで途切れる。

3月3日(木) A区掘り下げ。石aは仏龕の石の転落か。B区掘り下げ。II期小礫敷を除去。瓦多量出土。実測。

3月4日(金) B区実測の続き。

3月8日(火) A区掘り下げ。石bの下からも積石が出てきた。2月28日の推定と異なり、石bが石積前面で、石aは単なる転落石とほぼ確定。B区

掘り下げ。下層石積がさらに2段とI期石敷が現れた。石敷は石積の際まで続く。石積下端は東面と異なり階段状にならない。

3月9日(水) A区掘り下げ。石aの北で上層の裏込石をはずすとI期石敷が現れた。B区は平面実測と下半部の土層図作製。

3月10日(木) A区はI期石敷を検出終了。平面実測。B区は清掃。N 1 c 石仏の中央と東西両端の座標値を測定。

3月11日(金) A区は実測と下半部の土層図。B区は写真撮影。

3月14日(月) A区は下半部の土層図。

3月15日(火) A区は写真撮影。

3月16日(水) 頭塔環境整備委員会と記者発表。B区埋め戻し開始。

3月22日(火) A・B区埋め戻し。

3月18・23・24・28・29 30・31日、4月4・6・12・18・28、5月6日は省略。

## G 第257次調査 北面石積の解体・修理・復原 1994年11月10日～1995年4月18日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復原については『整備報告書』に譲り省略する。

11月10日(木) 今年度事業の打ち合わせ。

11月14・15・16・17・18 21 22・24・25・28・29日は省略。

11月30日(木) N 4 積土から軒平瓦 猛恵器が出土。

12月1・2・6 7・8・9日は省略。

12月12日(月) N 5 x 立石の裏面に丸い溝みを発見。他所からの転用材の可能性が高まる。

12月16・19・21・22・26日、1月9・10・13・18・24 31日、2月6・13 14・20日、3月6・8・9・14・16・27日、4月3・6・12・18日は省略。

## H 第264次調査 西面3ヶ所の断割と西面北半部石積の解体・修理・復原 1995年10月16日～1996年4月12日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復原については『整備報告書』に譲り省略する。

10月16日(月) 作業開始。

10月17・18・19・20・23日は省略。

10月24日(火) W 1 w裏からW 3 w際の間に2ヶ所の断ち割りトレンチを入れる。W 2 w北端から4.5m(A区)とW 1 c 石仏裏(B区)。

10月25・26日は省略。

10月27日(金) W 0 wの据え直し工事。根石下から猛恵器杯が出土。基壇の構築年代の決め手になるか。奈良時代後半～末のもの。

10月30 31日、11月1 2 3・6～11日は省略。11月13日(月) A区発掘開始。W 2 w石積を除去。裏込から土器・瓦が出土。

11月14日(火) A区掘り下げ。B区も発掘開始。

11月15日(水) A区掘り下げ。東北壁際で6732 F 2点出土。W 2 wの西下方で石群検出。B区はW 2 wの東下方で石積出現。

11月17日(金) A区掘り下げ。石群は据わっていないと判明し、実測後除去する事にした。B区掘り下げ。石積の西を30cm下げるに、石敷面が出てきた。下層にしては高すぎる。清掃・実測。

11月20日(月) A区掘り下げ。築土中の石は築成過程で入れたもので石積ではない。順次はずしながら掘り下げる。

11月21日(火) A区掘り下げ。W 2 w真下で南北石列検出。西には1段下がった石列もある。下層石積最下部か。

11月24日(金) A区掘り下げ。21日検出の階段状石列の西には石敷がない。

11月27日(月) A・B区写真撮影。W 1 c 石仏西のW 0 w上にトレンチを設け発掘開始(C区)。

11月28日(火) A区平面実測。B区は石積西側の掘り下げ。石積はさらに下に続く。C区はW 0 w最下段の下で地山を確認。

11月30日(木) A区は断面図作製。B区掘り下げ。石積上端から1・3m下まで石積があるが、その下にはない。非常に不可解。写真撮影。C区は近世の土器集積遺構を検出。

12月5日(火) A区南壁土層図完了。埋め戻し。B区北壁土層図完了。C区土層線引き。

12月6日(水) C区平面実測。土器集積の土器を取り上げ。

12月7・8・11・12・13・22・25、1月10・22・

26・31、2月8 13・14・15・16・20・22・26

27・28 29、3月1・12・25、4月12日は省略。

## I 第277次調査 東南部の発掘調査 1996年10月15日～1997年2月20日

10月1日(火) 現地打ち合わせ。  
 10月2日(木) 再度、現地打ち合わせ。  
 10月9日(木) 調査地に積んであった土嚢の上で凝灰岩製六角石塔屋根を表採。今まで誰も気付かなかっただらしい。  
 10月14日(月) 調査開始のはずが雨でなし。  
 10月15日(火) 調査開始。草刈と清掃。調査区西端の急斜面は後回しとし、平坦部の南端から表土除去開始。  
 10月16日(水) 表土除去北進。近世 近代の遺物を多量に含み厚い。  
 10月17日(木) 表土除去北進。西南隅で江戸時代の石列が出始める。  
 10月18日(金) 東辺・西辺の表土除去。北端で第114次C区を掘り上げる。E 1 w基底部はE 1 c石仏の南2mまでしか残らない。江戸時代の石列は2m四方に巡り、内部に墓標の基部2基が並ぶ。墓の西には五輪塔を浮き彫りにした墓碑が並ぶ。土留めに転用か。  
 10月21日(月) 東辺・西辺の表土除去。第237次A区西半の埋土除去。その北の巨大な土坑を下げ始める。江戸時代墓の検出完了。壊さず残すことになった。その西の墓碑列南端の石柱に「頭塔寺」「玄昉之旧跡」とある。  
 10月22日(火) 墓と第181次調査区との間で表土除去。第237次A区東半を掘り下げ。大土坑は隅丸方形になり、底が出ない。調査区南端で下層石積らしき石が頭を出す。  
 10月23日(水) 排土搬出作業。表土除去と抜根。  
 10月24日(木) 排土搬出と抜根に終始。  
 10月25日(金) 墓と第181次調査区との間で表土除去。調査区西端の崖面に石積が出ている。第181次調査時に存在は認識していた。位置はE 4 wとE 5 wの間だが、高さから見て下層。第237次A区はE 0 wを出しその東を下げる。大土坑は防空壕と判明。その南壁に2ヶ所、方50cm大の石を2段積んだものが出ていている。下層石積かと考えたが2ヶ所あるのは不可解。  
 10月28日(月) 第181次調査区の南で表土除去続行。北端から40cm南で崖状に切り土されている。第237次A区の南でE 0 wを出し始める。防空壕掘り下げ。調査区西南隅で築土が出始める。  
 10月29日(火) 墓と第181次調査区の間を下げる。墓と同レベルに達するが、他の墓はない。E 0 wを南へ追う。下半のみ残る。防空壕南半を断ち割り。2m下げても底は出ず。  
 10月30日(水) 墓と第181次調査区の間を下げる。北端崖面に下層仏龕の一部が見え始める。E 0 p

の検出。東への緩斜面にIII期基壇土とII期小礫敷が見える。E 0 wを南へ追う。防空壕と第181次調査区の間でもE 0 wを出す。  
 10月31日(木) E 0 pを検出しつつ西進。塔本体に達するが、E 1 wは抜かれている。E 0 wの東を下げ石敷が出始める。  
 11月1日(金) 雨で作業なし。  
 11月5日(火) 墓と第181次調査区の間を下げる。削平がひどく上層築土が出てこない。廃棄された大石が数点出る。E 1 w抜き取りの肩が出始める。墓の東でE 1 w最下段の3石を検出。E 0 w・E 0 p検出続行。  
 11月6日(水) 排土搬出作業。7日までかかる。  
 11月8日(金) 塔本体部分をさらに下げる。E 1 w抜き取り痕跡の西は削平がひどく、下層石積も出てこない。調査区西壁斜面の表土除去にかかる。E 0 w・E 0 p検出続行。  
 11月11日(月) 西壁斜面とその東で表土除去続行。斜面中の下層石積の下方にも石が並ぶ。上層築土は直に近く切り落とされている。捨て込まれた墓碑が数基出土。E 0 w東の石敷検出終了。  
 11月12日(火) 西壁斜面の東で掘り下げ続行。倒れた墓碑が続々出土。墓の西で斜面の表土除去。  
 11月13日(水) 西壁斜面の東で掘り下げ続行。底に近付く。長さ1.5mの大石2点が捨て込まれて出土。下層石積の一部か。北端では下層仏龕奥壁基底部が現れる。南面斜面の表土除去。  
 11月14日(木) 西壁斜面の東で掘り下げ続行。下層E 1 w最基底部の石列を原位置で検出。北端には下から2段目の石も1基残る。南面ではS 2 p S 3 w・S 4 wを出す。  
 11月15日(金) 調査区北壁の精査。下層仏龕の敷石の東西両端、奥壁の石2段が顔を出した。南面は表土除去続行。S 3 wの続き、S 5 w・S 6 wの一部が出る。  
 11月18日(月) 下層仏龕内の上層築土の除去開始。南面からの表土除去北進。S 4 p・S 5 w E 5 w・E 6 wを検出。E 5 pは残らず。E 5 b石仏が出現。如来2体並座。石仏前で小皿片出土。調査区北端のE 5・E 6上の表土を除去開始。  
 11月19日(火) 調査区北端のE 5・E 6検出開始。E 4 p・E 5 w・E 5 p・E 6 w比較的良く残る。E 5 pは北半の既復原部より最大30cm高く傾斜が急。E 5 b石仏前に小皿2枚伏せてある。取り上げて石敷を出す。下層E 2 w南延長部検出。3段の所有り。南面はS 2 w推定位置を下げる。  
 11月20日(水) 調査区北端E 5・E 6検出終了。下層E 2 w検出続行。南面掘り下げ続行。S 2 wら

しき石あり。その東で下層S 1 wも出始める。

11月21日(木) 第237次B区内の下層E 2 w推定位位置を掘り下げ開始。下層E 2 wと下層S 1 w検出続行。

11月22日(金) 下層E 2 wと下層S 1 w検出続行。下層E 2 wは高さ130cm残る。

11月25日(月) 下層E 2 wと下層S 1 w検出続行。第237次B区内では下層E 2 wの東を下げる。

11月26日(火) S 2 w推定位置掘り下げ続行。その南の拡張開始。第237次B区内では下層・上層築土の境界を出す。下層仏龕内の検出再開。

11月27日(水) 下層E 2 w・S 2 wの角の石を検出。下層仏龕を掘り上げ、下層E 1 w基底部を検出開始。下層3段目を捜すべく、第237次B区内のE 6 p下方断ち割り開始。

11月28日(木) 下層E 1 w基底部検出続行。下段直上に瓦・土師器の集中部あり。拡張区でS 1 w検出開始。下半しか残らず。S 2 wは全く残らず。下層S 1 wも検出。階段状の部分あり。

11月29日(金) 下層E 1 w基底部検出続行。瓦・土師器を取り上げる。土師器は中世という意見もあり困惑する。S 1 w南の新しい石垣を撤去。S 1 w北を精査。頂上部断ち割り続行。

12月2日(月) S 1 w南で基壇土を出す。攪乱土坑の壁にI期石敷が見える。下層S 1 w上半精査。3段の階段状となる。頂上部断ち割り続行。西進するが何も出す。下層E 1 w基底部検出続行。

12月3日(火) S 1 w南で基壇土検出終了。III期基壇土から土師器杯出土。下層S 1 w上半精査。階段状の上2段の石は東に続かない。下半石積もきれいに出てくる。下層E 1 w基底部検出完了。11月29日出土の土師器は奈良でも良いとのこと。頂上部断ち割り続行。まだ変化なし。

12月4日(水) 頂上部断ち割り続行。清掃など。

12月5日(木) 頂上部断ち割りはE 6 w基底石から1.5m下に及ぶが、下層E 3 wは出ず。諦めかかる。写真測量に備えた清掃。

12月6日(金) 清掃と測量準備。頂上部断ち割りは、さらに20cm下げてから西進に切り替える。

12月9日(月) 清掃と測量準備。標定点設定。

12月10日(火) 写真測量の撮影。

12月11日(水) 写真測量の撮影。撮影台設営。

12月12日(木) 写真測量の撮影。清掃。

12月13日(金) 地上写真。天気良すぎる。

12月16日(月) 地上写真。やはり天気良すぎて途中で中止。東辺を拡張することにし、東壁土層図作製。壘ってきたので写真撮影再開。

12月17日(火) 写真撮影。東辺拡張。

12月18日(水) 東辺拡張。防空壕壁の土層図作製。頂上部断ち割り再開。

12月19日(木) 東辺拡張。防空壕壁の土層図終了。

10月25日に南壁で検出した石積2ヶ所の間は築土でなく埋土らしい。下層S 1 w上方の断ち割り。S 1 w北側の断ち割りで、石敷面が出現。第264次B区との同類。頂上部断ち割り続行。

12月20日(金) 東辺拡張続行。E 1 w東の石敷を出す。創建期のものではない。下層S 1 w上方の断ち割り。S 1 w北側の石敷面の東を下げる。下層S 1 w下半を検出。頂上部断ち割り続行。

12月23日(月) 休日も仕事。防空壕西側の断ち割り開始。南西方向の石列が出現。下層S 1 w下半検出続行。石積の間に石がなく築土だけの部分がある。第264次B区での疑問が解けた。頂上部断ち割り続行。

12月24日(火) 防空壕の南西も断ち割り開始。石列が2条となり間は締まりが悪い埋土。下層S 1 w南でI期石敷面が出る。

12月25日(水) 防空壕西南断ち割りでは石列間を下げる。6世紀の須恵器出土。上半を破壊された横穴式石室と判明。礫敷の床面から耳環・鉄鎌・鉄刀・須恵器・土師器も出土。羨道を捜すべく南に拡張。まずI期石敷面が出る。その東を下げる。下層S 1 w南のI期石敷面検出終了。

12月26日(木) 石室の玄室南半と羨道の検出続行。石室は片袖。I期石敷面を追って南へ拡張。

12月27日(金) 石室内清掃。羨道も掘りきる。石室の写真撮影。I期石敷面の北端が出る。

12月28日(土) 石室とS 1 下層S 1 の写真撮影。玄室内遺物の実測と取り上げ。

12月29日(日) 石室礫床の実測。

1月7日(火) 大刀・簪の取り上げ。平面実測準備。頂上部断ち割り再開。心柱近くまで来る。

1月8日(水) 玄室内の鉄片とガラス小玉の取り上げ。石室・I期礫敷の実測開始。頂上部断ち割り続行。心柱に達し、柱痕跡内を下げ始める。30cm下げた現頂上から2.1mで100枚を越える縁錢か出土。

1月9日(木) 錢出土状況の写真撮影と実測。銭の取り上げ。棒で探ると心礎がありそうだ。

1月10日(金) 頂上断ち割りの平面実測。その後さらに掘り下げ開始。柱痕跡内も下げるごとに、板片と漆喰状物質が出土し、心礎の柱座と造り出しが現れた。

1月13日(月) 頂上断ち割りの掘り下げと西への拡張。石室礫敷の実測再開。E 0 w東石敷も実測。

1月14日(火) 頂上断ち割り内を礎石まで下げる。南面S 1・下層S 1 の平面実測開始。

1月16日(木) 礎石と据え付け掘形を検出終了。南面の実測続行。

1月17日(金) 礎石の清掃・写真撮影・実測。礎石東側の断ち割り開始。南面実測続行。

1月20日(月) 南面実測完了。整備指導委員会と記

者発表。

1月21日(火) 磁石脇断ち割り続行。第237次B区内で下層E 2 w付近の土層図追加開始。

1月22日(水) 午前中降雪で現場に行けず。午後に第237次B区土層図追加続行。

1月23日(木) 磁石脇断ち割り続行。深さ2.9mに達す。南面調査区西壁の土層図作製。

1月24日(金) 磁石下を断ち割る。鎮壇具などは出ず。下層E 2 w付近土層図追加。頂上断ち割り北壁土層線引き。

1月27~31日は調査担当者不在で作業中断。

2月3日(月) 磁石下断ち割り深さ3.1mで止め、掘り下げ東進開始。南面の断ち割り部土層図作製。

2月4日(火) 清掃。写真測量の撮影。頂上断ち割り続行。調査区南壁土層図作製。

2月5日(水) 写真測量の撮影。頂上断ち割り続行し、その南壁土層線引き。磁石には据え付け掘形がある。

2月6日(木) 頂上断ち割り南壁土層線引き。石室

床面断ち割り開始。

2月7日(金) 頂上断ち割り南壁土層図作製開始。石室床面断ち割り続行。

2月10日(月) 頂上断ち割り南壁土層図続行。石室西側断ち割り開始。古墳盛土を検出。

2月12日(水) 頂上断ち割り南壁土層図続行。石室床面と西側の断ち割り追加。写真撮影。

2月13日(木) 頂上断ち割り南壁土層図続行。磁石据え付け掘形は上層築土からの掘削と確定。下層3段目の築土は現れていない。石室床面断ち割りの写真撮影と実測。溝道は土床と確定。

2月14日(金) 平面図・土層図の補足。

2月17日(月) 平面図・土層図の補足。磁石の掘り上がり写真撮影。土層剥ぎ取り準備。

2月18日(火) 平面図・土層図の補足。

2月19日(水) 平面図・土層図の補足。土層剥ぎ取り作業。撤収準備。

2月20日(木) 清掃・片付け・撤収。

### J 第282-15次調査 7段目石積の解体・修理・復原 1998年1月21日~1998年2月26日

石積の解体は記述するが、積み直し・修理・復原については『整備報告書』に譲り省略する。

1月21日(火) W 7 w解体。

1月22日(水) W 7 w解体。

1月23日(木) N 7 w解体。

1月26日(日) N 7 w解体。

1月27日(火) W 7 · N 7 の写真撮影。

2月4日(水) E 7 w解体。

2月18日(木) E 6 pの発掘調査。

2月26日(水) E 6 p解体。

3月17・18日は省略。

4月27日(月) 竣工写真撮影。

5月8日(金) 竣工写真撮影 (Fig. 4)。



Fig. 4 整備竣工状況

### 3 復原整備の構想と概要

#### (1) 復原整備基本構想

北半部の発掘調査（第181～199次）の結果、上層頭塔の構造、石仏の配置などが明らかになった。ただし、この時点（1989年度）では下層頭塔の存在は予測できたものの、遺構は未確認であった。はじめに考えた整備方針は、①発掘した北半部に覆屋を架け、遺構を露出展示する案、②覆屋は設けず石積と石積上の屋根を復原し、石積や石仏の保護を兼ねたものとする案、③石積のみを復原し目地などの土の部分も風雨に耐える程度まで強固に固める案、などである。①案には覆屋自体の景観的な問題や付近の住宅に対する電波障害などの懸念があること、②案には屋根本來の形を決める根拠となる遺構が残っておらず、そのためにいくつかの復原案が考えられたものの、決定的な一案にまとまらないという問題が残った。結局、③案でいくこととなり、頂上部には発掘調査前からあった五輪塔を戻すことで落ちついた。

石積は基壇、塔本体とも完全に残っているわけではなく、上半部はことごとく崩れさっているから、復原に際し石積の高さや石敷の勾配をどう考えるかという問題がある。また復原した石積がすぐに崩れることなく、一定期間安定を保つように、現在不安定な石積は修理し、補強する必要がある。さらにこの上に失われた石積を復原するのであるから、上部の石積を支えられる石積としなければならない。また復原した石積やテラスの石敷面は露出した状態で風雨に曝され、雨水が流れ落ちることとなるから、石と石の間の土が侵食され、石が浮いてこないよう目地を固める必要がある。このため表面部分の土にセメントを加え、強化を図ることとした。

頭塔は南の清水通りに入口があり、見学料を払い鍵を管理人に開けてもらい、中を一周して見学するようになっている。内部の通路の両側には高さ2mほどの高いフェンスがあり檻の中を歩く感があった。フェンスを越えて石仏を探査したり写真を撮る輩がいて、無人で人目につけぬ状態では管理しきれず、高いフェンスが必要であった。今回の整備後も事情は変わらないから、見学路から頭塔内へ入れない工夫が必要となるが、可能なら高い柵は設けたくない。これらの理由から見学路を中空に浮かすデッキ式とし、低い柵でも越えにくかろうと考えた。

#### (2) 整備事業概要

発掘調査を含めた整備事業全体は1986年度に始まり、2000年度に終了した。各年度ごとの事業概要（Tab.1）と、石積と石敷の修理、復原の年度ごとの位置（Fig.5）を示す。石積と石敷の修理、復原工事は基本的に以下の手順で行った。

- ①清掃後、解体修理する必要がある石積、石敷の石1個ごとに番号を書き込む。
  - ②解体した石を整理、仮置きし、石積では下から出てきた石積の写真撮影と平面実測を行う。
  - ③解体前の平・立面図 写真をもとに解体石を従前の位置に戻し、安定するように据え直す。
  - ④残存していた石積とこの上に復原補充する石積とを区別するために③で戻した石積の上面に沿って奥行き30cm、厚さ3mmの鉛板を敷き込む。
  - ⑤鉛板上に復原石積を積む。補充石1個ごとに裏に補充年度を墨書きし、後の再修理に備える。
  - ⑥全体の修理、復原が完成した時点で石積、石敷の平面・立面図を写真測量によって作成する。
- なお、復原整備事業の詳細は『史跡頭塔復原整備事業報告書』に詳しいので参照されたい。

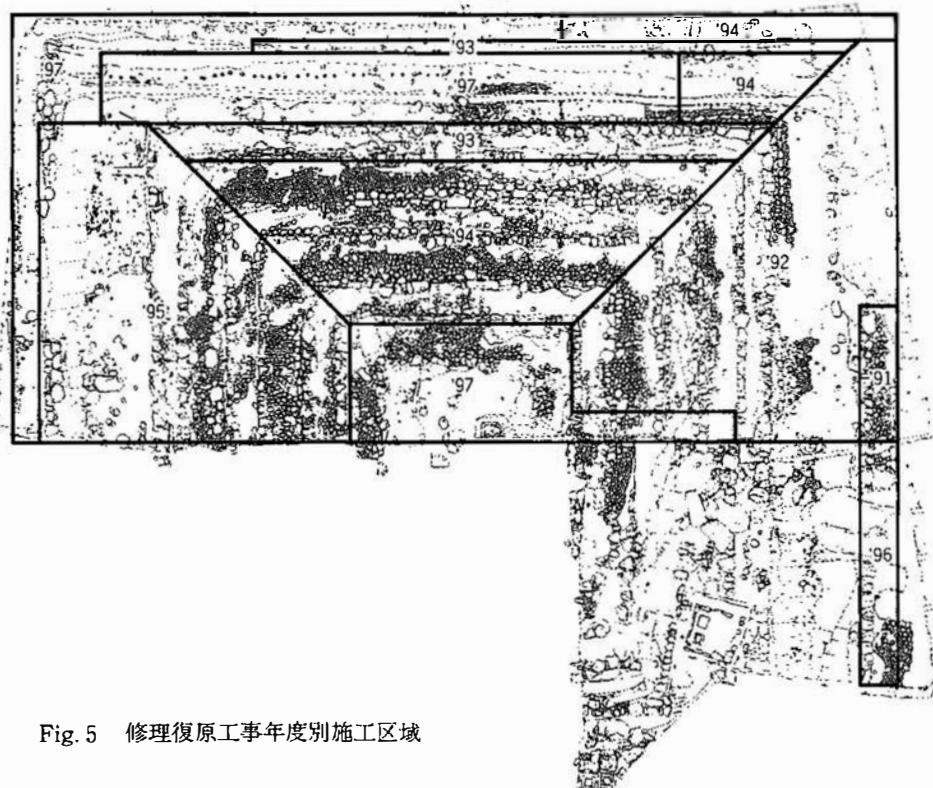


Fig. 5 修理復原工事年度別施工区域

Tab. 1 発掘調査整備事業年度別概要

年度	整備事業概要
1986	第181次発掘調査（北東部 1/4、300m <sup>2</sup> ）、発掘前頭塔現況地形測量（1/100）
1987	遺構図団化（1/20平面図300m <sup>2</sup> 、同立面図136m <sup>2</sup> ）
1988	第199次発掘調査（北西部 1/4、300m <sup>2</sup> ）、周辺現況地形測量（1/250）
1989	遺構図団化（1/20平面図300m <sup>2</sup> 、同立面図136m <sup>2</sup> ）、覆屋案作成
1990	基本計画案作成
1991	第232次発掘調査（15m <sup>2</sup> ）、東辺基壇および本体東面中央部石積（11.9m <sup>2</sup> ）・石敷（35.9m <sup>2</sup> ）解体、東辺基壇石積（6.2m <sup>2</sup> ）・石敷（8.5m <sup>2</sup> ）積み直し・復原
1992	第237次発掘調査（40m <sup>2</sup> ）、本体東面石積（22.2m <sup>2</sup> ）・石敷（43.0m <sup>2</sup> ）解体、東辺基壇および本体東面石積（44.2m <sup>2</sup> ）・石敷（112.7m <sup>2</sup> ）積み直し・復原
1993	第247次発掘調査（6 m <sup>2</sup> ）、本体北面石積（14.1m <sup>2</sup> ）・石敷（8.0m <sup>2</sup> ）解体、本体北面石積（61.4m <sup>2</sup> ）・石敷（15.0m <sup>2</sup> ）積み直し・復原
1994	第257次発掘調査（北面第3～6段石積解体調査）、本体北面石積（37.4m <sup>2</sup> ）・石敷（43.5m <sup>2</sup> ）積み直し・復原
1995	第264次発掘調査（8 m <sup>2</sup> ）、西辺基壇および本体西面石積（8.7m <sup>2</sup> ）・石敷（36.6m <sup>2</sup> ）解体、西辺基壇および本体西面石積（61.1m <sup>2</sup> ）・石敷（98.1m <sup>2</sup> ）積み直し・復原
1996	第277次発掘調査（100m <sup>2</sup> ）、基壇東辺石敷解体（3 m <sup>2</sup> ）・石積復原（19.2m <sup>2</sup> ）・石敷敷き直し復原（23.8m <sup>2</sup> ）
1997	第282～15次発掘調査（西・北面第7段石積の解体調査）、同石積（27m <sup>2</sup> ）・石敷（85.2m <sup>2</sup> ）の積み直し・復原、頂上部五輪塔設置、石仏納堂設置、東南部斜面保護（203m <sup>2</sup> ）
1998	見学デッキ整備
1999	見学デッキ整備、案内板設置
2000	南側園路・フェンス改修、案内板設置、整備報告書作成